

D 18 集合住宅居住者の住まい方に関する研究 (第2報)

子どもの住戸内での居住実態

高知大教育 菊地るみ子

目的 家族の居住実態を報告した第1報に続いて、本報では、子どもの住戸内を中心とした居住実態を、年齢ごとに明らかにしようとした。

方法 第1報と同じく、奈良市郊外にある3LDK型の集合住宅居住者に対するアンケート調査である。そのうち子どものある147世帯から回答を得た。子どもの年齢による内訳は、3才未満80名、3才-小学2年生90名、小学3年生以上27名である。

結果 (1)子どものために室を用意している家庭は、3-4才でも8割近くある。

(2) 年齢によるベッド使用率をみると、2才児を最低にその後はしだいに増加している。

(3) 3才未満の子ども ①夜一緒に寝る人は、両親と母だけがほぼ半数ずつを占める。また1人寝は、2才以上になるとみられる。②歩行できるようになると、生活が変化する。1才以後になると、子どもは好きにさせておき、親が時々みる場合が多く、北洋室が使用され出す。また団地内の遊び場に行ったり、戸外での日光浴も、0才児に比べるとはるかに増える。入浴後の着衣場所は居間が多いが、1才以後には脱衣室も使用される。

(4) 3才-小学2年生の子ども ①遊び場として多いのは、自分の家、団地内の遊び場、団地内の友人宅で、友人数は2-3人が多い。②団地内の遊び場での使用時間は、平日で1-2時間が多く、休日でも増加しない。

(5) 小学3年生以上の子ども ①家にくる友だちは、2-3人が最も多い。②団地内の遊び場では、平日・休日ともほとんど遊ばないものが増える。③子どもに個室が必要と答える親は7割近くあり、必要年齢では中学1-2年が多い。